

登録番号 第 23994 号

MIC®エンドタールK液剤

- 特長：
- 生育中のスズメノカタビラに効果があります。
 - 効果の発現が早く、土壌中ですみやかに分解します。
 - 散布してから4、5日後にはオーバーシーディングができます。
 - コアリングの直後にも安心して使用できます。

MICは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エンドタールニカリウム塩・・・2.11% (エンドタール・・・1.50%)	包装	2L×6
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	エンドタールを含む 農薬の総使用回数
日本芝 (こうらいしば)	スズメノカタビラ	芝休眠期 (雑草生育期)	8~12 L/10a	200L/10a	3回以内	散布	6回以内
西洋芝 (ブルーグラス)	スズメノカタビラ	芝生育期 (雑草生育期)	2~6 L/10a	200L/10a	6回以内	散布	6回以内
西洋芝 (ベントグラス)	スズメノカタビラ	春夏期芝生育期 (雑草生育期)	1~2 L/10a	100L/10a	6回以内	散布	6回以内

使用上の注意事項

- 本剤は、生育期のスズメノカタビラに有効なので、雑草の発生後に均一に散布すること。
- 本剤使用の際は、展着剤を加用すると効果的である。
- 散布直後の多量の降雨は効果を減るので、天候を見極めてから散布すること。
- 張り芝直後又は播種後6ヶ月未満の芝地、干害、異常低温、高温障害を受けた芝草への散布は、薬害を生じる恐れがあるので使用しないこと。
- ブルーグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
 - スズメノカタビラを徐々に防除するためには、所定量の範囲内の低薬量で数回散布すると有効である。
 - 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
 - 芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
 - 気温27℃以上の高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
 - 本剤は砂質土の芝地では薬害を生じる恐れがあるので、所定量の範囲内の低薬量で使用する。
- ベントグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
 - スズメノカタビラを徐々に防除するため、所定量の範囲内の薬量で数回散布すること。
 - 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
 - 芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
- 周辺作物や有用植物に薬液が飛散すると薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないように注意して散布すること。

- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常的使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。